



フランチャイズ本部を運営していく上で 欠かすことのできない中身の濃い講座

倉持篤哉 (株)タックルベリー FC開発部部长

1993年加盟店としてCVS経営を経て、マルチフランチャイジー企業で事業開発を担当。2005年(株)タックルベリー入社、現在はFC開発部長として加盟店開発と店舗開発を担当。

「レジャー」とは、「余暇」というよりも「アクティブな自由時間の過ごし方」の意味合いが強く、人々が現代社会において健全な生活を営む上での重要な役割を担っております。

タックルベリーは2000年4月に中古釣具専門店としてスタートしました。当時のリユースマーケットはレジャー産業に照準を合わせたものがほとんどありませんでしたので、市場シェアを一気に獲得すべく、フランチャイズでの展開を選択しました。そこで、他社との差別化を図るため創業当初よりデータベースを構築し、「相場検索システム」「在庫共有システム」を実現、素人でも簡単に買取査定・適正価格での販売ができ、更に自分の店舗にない顧客の欲しい中古商品を、他の店舗から取寄せて販売することを可能にしました。その結果「販売機会の損失」「在庫リスク」を軽減することができ、顧客及び加盟店の支持を得、150店超の outlet に至っております。また、店舗網の拡大にあわせ、日本最大の中古釣具ショップ@ベリーネットをプレオープンさせ、顧客の利便性を追求しています。

今回、フランチャイズ経営士の講座に参加させていただき、自社のビジネスモデルを改めて検証する機会を得られ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。単なる「お勉強」とは一線を画し、講師の方一人ひとりが、体験の中から得たりアリティのある言葉で語っていただき、大変参考になりました。特に、グループワークでの他企業の方との共同作業は、自

分にはない知識や経験を持つ方と議論ができ、大いに刺激を受けました。講座内容も法規からアカウンティング、経営戦略、マーケティングなど多岐に渡り、フランチャイズ本部を運営していく上で欠かすことのできない中身の濃いものでした。

現代社会において、環境問題は国民的な関心事であり、自然と触れ合う「釣り」に注目が集まる一方で、ブラックバスが特定外来生物に指定されたり、国際テロ阻止を目的とした改正ソール条約による一部港湾内での釣り禁止など、外部環境の変化にどれだけ素早く、的確に対応できるかが本部の重要な役割となっています。当社は社訓に「スピードは力なり」「変化は進化なり」を掲げており、「変化への対応」をいかに早く行い、ピンチをチャンスに変えていけるかを信条として行動しています。今回の講座で学んだことは、その決断の道標として活かしていきたいと思えます。

フランチャイズシステムは、既に経済社会において必須なものとなっていますが、スピードを重視する拙速による弊害も出てきております。今まさに人材育成の一環としてフランチャイズ経営士を増やすことが、フランチャイズ業界全体の急務と感じます。

今回の受講にあたり、協会の皆様、講師の皆様には大変お世話になりました。今後も協会とフランチャイザーとのパートナーシップのもと、社会貢献できるよう精進していきたいと思えます。有難うございました。